韓国に駐在する地方公務員を対象とした国際総合研修

～慶尚北道（けいしょうほくどう）の「道庁移転新都市」でダイナミックな韓国の取組みを学ぶ！～

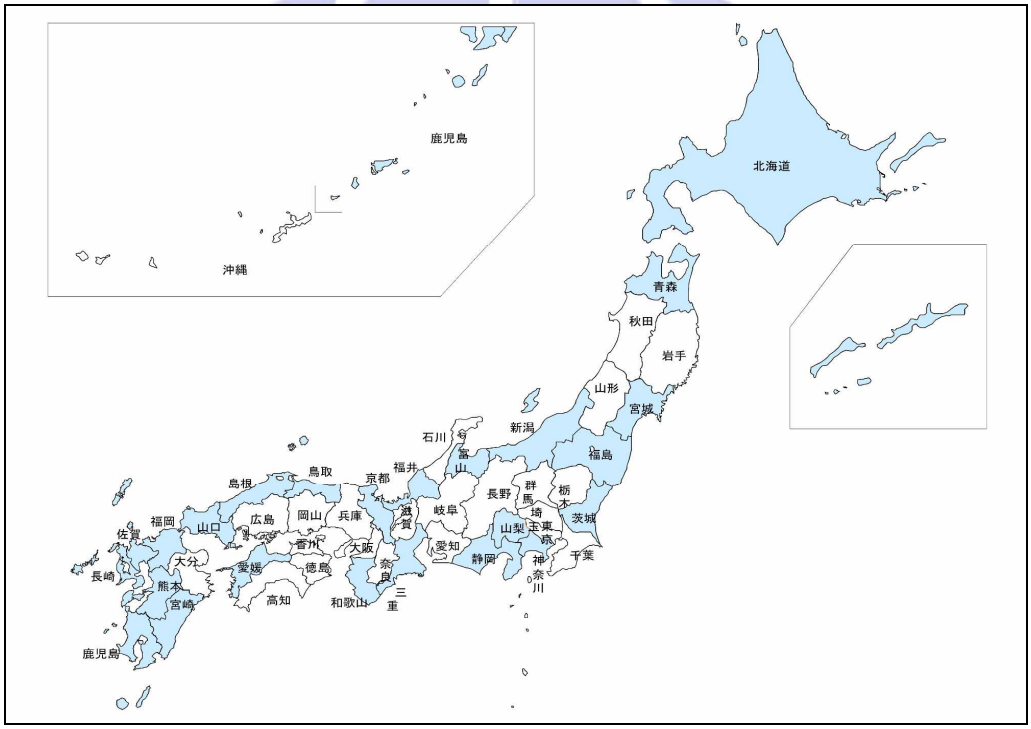
ソウル事務所

1　今年度も韓国国内で日本の地方公務員が活躍しています！

日韓両国の政府レベルでは、お互いの主張が噛み合わない問題も生じていますが、地域レベルでの交流は引き続き活発に行われており、姉妹都市提携数も年々増加※しています。（※姉妹都市提携数は 2014 年９月末現在で 154 件に上っています。）

また、このように地域レベルでの交流が活発に行われ、さまざまな分野で日韓両国の結びつきが強くなる中、今年度も日本全国から地方公務員が韓国国内に赴任し、国際交流業務に従事しています！

【今年度、韓国に職員を派遣している地方自治体が含まれる都道府県を水色で表示。
2014 年 9 月末現在、日本全国から 39 名※の地方公務員が派遣されている。（※クレア集計）】



【日本の地方公務員が派遣されている地域の内訳（2014 年 9 月末現在）】

	派遣されている地域	人数
1	ソウル特別市	23 名
2	京畿道	５名
3	釜山広域市	３名
4	仁川広域市	２名
	江原道	２名
5	忠清北道	１名
	忠清南道	１名
	慶尚北道	１名
	済州特別自治道	１名

2　クレアソウルが開催している日本の地方公務員向けセミナー

クレアソウル事務所では、1994 年から、韓国に派遣された日本の地方公務員を対象にした「韓国駐在地方公務員等連絡協議会[1]兼クレアソウルセミナー（以下、「クレアソウルセミナー」または「セミナー」）という。」を開催しています。

このセミナーは、韓国に駐在する日本の地方公務員全体の国際交流分野（観光・物産・文化等）における知識向上・理解促進、並びに駐在員として活動する上でのスキルアップ、そして人的ネットワーク形成等を目的として、毎年度４～５回程度開催しています。

※［左］2013 年度第 3 回　中央政府機関の地方移転が進められる世宗特別自治市の建設状況を視察
　［右］2013 年度第 5 回　朝鮮日報本社を企業訪問し、韓国における新聞発行の最前線を視察

【参考：2014 年度、2013 年度の開催状況】

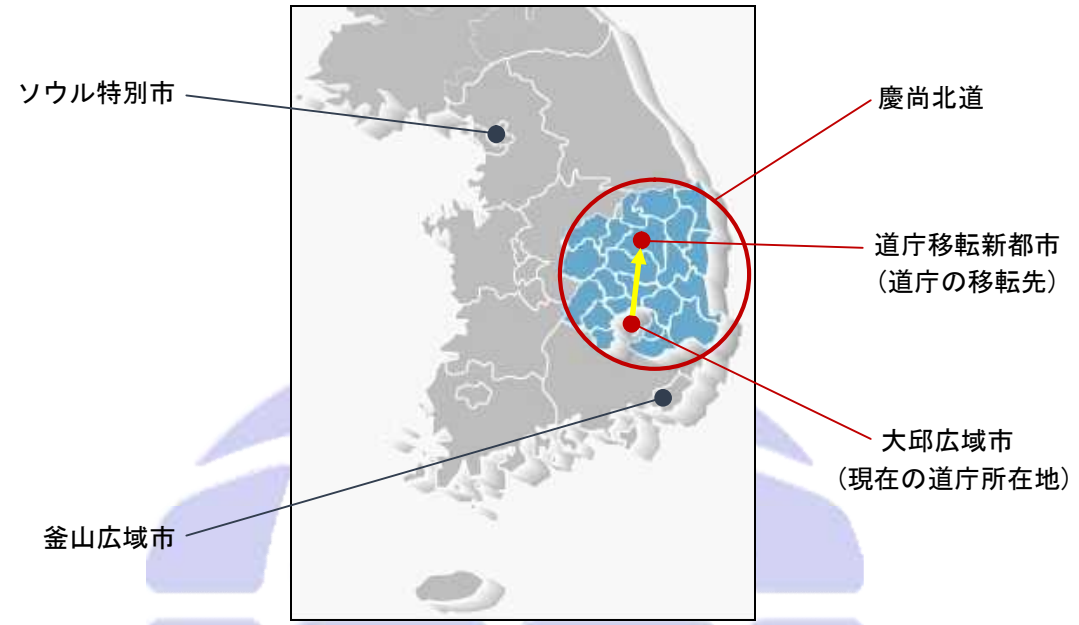
回	時　期	場　所	内　　容
2014 年度			
2（今回）	2014 年９月（１泊２日）	慶尚北道安東市、慶尚北道亀尾市	慶尚北道庁移転新都市、安東河回村の視察、「第 16 回日中韓３か国地方政府交流会議」への参加
1	2014 年６月（１日）	ソウル特別市	「韓国人の海外旅行･訪日旅行動向とビジット･ジャパン事業（日本政府観光局）」、「日本の輸出･対日投資施策とジェトロ事業（日本貿易振興機構）」ほか講義
2013 年度			
5	2014 年２月（１日）	ソウル特別市、京畿道加平市	朝鮮日報本社及び朝鮮日報ミュージアム（歴史記念館ほか）、株式会社ウリ酒の視察等
4	2013 年 11 月（１日）	ソウル特別市	ソウル市環境対策施設「麻浦資源回収施設」の視察、2013 年度 CLAIR・KRILA 共同セミナー参加等
3	2013 年 10 月（１泊２日）	全羅北道完州郡、世宗特別自治市	「韓国地方行政研修院、行政中心複合都市及び世宗特別自治市の概要と展望」講義、現地等視察
2	2013 年９月（１泊２日）	忠清南道扶餘郡、忠清南道公州市	「忠清南道扶餘郡及び公州市の概要及び観光政策」講義、歴史遺産等観光施設の視察
1	2013 年６月（１日）	ソウル特別市	「大韓民国における日本人誘客事業展開（韓国観光公社）」講義ほか韓国政策講義等

1　「韓国駐在地方公務員等連絡協議会」とは、韓国に駐在している日本の地方公務員や関係者が会員となり組織している。事務局はクレアソウル事務所に設置しており、会長はクレアソウル事務所長が務めている。

3　2014 年度第２回目のクレアソウルセミナーは･･･

2014 年度第２回クレアソウルセミナーは、2014 年９月１日（月）、２日（火）の２日間に慶尚北道を舞台に開催し、韓国全土から日本の地方公務員の皆さま 16 名にご参加いただきました。

【参考：慶尚北道及び道庁所在地の位置図】



■今回の舞台「慶尚北道」とは･･･
朝鮮半島の東南部に位置。人口は約 270 万人（京都府（約 260 万人）とほぼ同じ）で 17 広域自治体中６番目に多く、面積は 19,000km²（京都府の約４倍の面積）で 17 広域自治体の中で最も大きい。

今回のセミナーでは、道庁移転と新都市建設が進められている「慶尚北道庁移転新都市」、そして韓国で最も歴史的価値が高いと評される「安東河回村（あんどんハフェマウル）」を視察しました。

また、日中韓３か国の地方政府間の国際交流、協力の促進を目的として、1999 年から毎年開催されている「第 16 回日中韓３か国地方政府交流会議」へ参加しました。

【2014 年度第２回クレアソウルセミナーの日程表（※３日（水）以降は希望者のみ参加）】

日にち	内　　容
９月１日（月）	視察 ■「慶尚北道庁移転新都市」の視察 ■「安東河回村」の視察 「第 16 回日中韓３か国地方政府交流会議」への参加 ■参加者登録 ■開会式、歓迎レセプション、歓迎夕食会
９月２日（火）	■記念講演、基調講演、主旨発表、分科会 （※以降、希望者のみ参加） ■交流の広場、閉会式、閉会レセプション
９月３日（水） ９月４日（木）	■慶尚北道内の「半日視察コース」（３日まで） ■慶尚北道内の「１泊２日視察コース」（４日まで）

（１）「慶尚北道庁移転新都市」の視察

セミナー参加者一行は、慶尚北道安東市及び醴泉（エチョン）郡一帯に開発が進められている「慶尚北道庁移転新都市（以下、「新都市」という。）」を視察するため、現在建設中の慶尚北道庁の新庁舎を訪問し、慶尚北道道庁移転推進本部の方から道庁移転の経緯や新都市の建設状況等について説明を受けました。

※［左］新都市の建設状況について説明を行う責任管理団 キム・テジン管理団長
［右］建設状況について説明を受けるセミナー参加者たち

ア　なぜ道庁舎の移転の必要が生じたのか？

現在、慶尚北道の道庁舎は、まったく別の直轄市である大邱広域市の中に所在しています。このように道庁所在地と道の行政管轄区域とが一致していない状態（※３頁の地図参照）は、大邱市が大邱広域市に昇格した 1981 年から続いてきました。

しかし、その後、道庁所在地と道の行政管轄区域との一致を求める道民世論が高まり、2006 年、道庁舎の移転を公約に掲げた金寛容・現知事が慶尚北道知事に就任、以降、同知事の下で新庁舎の建設と新都市の建設が進められることになりました。

【慶尚北道の道庁移転に至る経緯】

年　月	主　な　動　き
1314 年	・今から 700 年前、「慶尚道」と称する。
1896 年８月	・13 道制の実施に伴い名称を「慶尚北道」に変更。 ・併せて、大邱に観察使（道庁に当たる施設）を設置。
1981 年７月	・大邱市が直轄市「大邱広域市」へ昇格し、慶尚北道から分離。 →　慶尚北道の道庁舎所在地と行政管轄区域が不一致となる。
2006 年６月	・道庁移転を公約に掲げた金寛容氏が道知事に就任。 →　「新慶北発展構想」を発表。
2007 年３月 ６月	・「慶尚北道の道庁移転のための条例」が成立。 ・道庁移転予定地を現在の場所（安東市･醴泉郡）に決定。
2008 年３月 ６月	・「道庁移転のための都市建設及び支援に関する特別法」が成立。 ・「慶尚北道道庁移転のための都市建設及び支援に関する条例」が成立。
2010 年２月	・「道庁移転新都市基本計画」を策定。
2011 年 10 月	・道庁新庁舎建設工事に着工。
2012 年２月 ９月	・「新都市開発計画」を策定。 ・「第１段階」の新都市開発に着手。

イ　道庁舎の移転と新都市の建設

今回の慶尚北道の取組みにおいて特筆すべきことは、道庁舎の移転が単に「既存の都市に新しく庁舎を建設する」のではなく、「何もない未開発の地域に一から道庁という行政機関を中心とした新都市を建設する」ということです。このようなダイナミックな取組みは、韓国の中央政府機関や公共機関の地方移転を目的とした世宗特別自治市の建設[2]とも通じる部分が感じられます。

韓国では、このような取組みは、地方自治体による地域開発の一大プロジェクトであり、全羅南道（2005 年）や忠清南道（2012 年）における道庁舎の移転の際にも同様に実施されました。慶尚北道においても 2007 年、道庁舎の移転先が決定され、新都市の建設が開始されました。

【上：新都市の建設が決定した地域の上空図、下：新都市の完成後のイメージ図[3]】
※道庁舎の移転先は、安東市から西に約 20km、醴泉郡から南南東に約 10km、そして世界文化遺産「安東河回村」と隣接した地域に決定され、建設がスタートした。

2　自治体国際化フォーラム 277 号（2012 年 11 月号）「特集：韓国の「中央政府機関・公共機関の地方移転政策」について（URL：http://www.clair.or.jp/j/forum/forum/articles/index-277.html）」を参照。
3　出展：慶尚北道庁の説明資料「－新しい千年を開く慶尚北道－道庁移転新都市の建設推進状況」

ウ　新都市の概要、建設の推進状況

慶尚北道は、約 11km^2（東京ドーム約 230 個分の敷地）の敷地に人口 10 万人（４万世帯）の行政中心複合型自立都市を作る計画です。この計画は、2010 年から 2027 年まで 18 年間を工期とし、３段階のプロセスに分けて進められており、総事業費は２兆３千億ウォン（約 2,200 億円）に上ります。

まず、計画の第１段階では 2014 年末までに、大邱広域市から道の行政機能（道庁、道議会、道教育庁、地方警察）を移転し、人口 25,000 人規模の住宅を形成します。

また、第２段階では 2020 年末までに、人口 44,000 人規模の住宅、商業施設、総合病院等を整備します。

そして、第３段階では 2027 年末までに、人口 32,000 人規模の住宅、産業団地、大学やテーマパーク等の施設が整備される予定です。

【新都市の概要】

項　目	内　　容
面　　積	10.96km2（面積比 ･･･「安東市 63.4」対「醴泉郡 46.2」）
目標人口	10 万人（100 人/ha）
事業機関	2010 年から 2027 年まで
事 業 費	新都市開発：約２兆３千億 W ※このほか、新庁舎建設費は約 4,000 億 W（政府が約 44%を支援）、関連道路の建設費は約 1,900 億（政府が約 50%を支援）。
開 発 の ビジョン	I　歴史と伝統が生きる「文化都市」 II　低炭素グリーン成長を主導する「田園型生態都市」 III　慶尚北道の新成長を導く「先端ブランド行政都市」

【新都市の段階別開発計画の概要】

	第１段階 行政タウンの整備	第２段階 都市活性化段階	第３段階 道庁新都市との完成段階
期間	2010 年から 2014 年まで	2015 年から 2020 年まで	2021 年から 2027 年まで
内容	行政施設、関連機関、住宅及び住宅用地等の整備	商業施設、総合病院、住宅及び住宅用地等の整備	産業団地、大学、レジャー施設等の整備
面積	4.80km^2	3.29km^2	2.87km^2
人口	25,000 人	44,000 人	31,000 人
住宅	9,908 戸	17,544 戸	12,548 戸
対象エリア			

エ　説明終了後の質疑応答

慶尚北道庁の説明終了後、参加者からは道庁新庁舎の建設に係る国と地方自治体との経費負担の考え方や道庁の移転先決定に係るプロセス等について質問が出されるなど、活発な質疑応答が行われました。

説明内容に対する質問を行う参加者

回答する道庁移転推進本部　シン・ホヌク係長

オ　道庁新庁舎周辺の視察、説明

続いて、セミナー参加者は庁舎の外に出て実際に建設現場を見学しながら、建設状況等の説明を受けました。

慶尚北道庁の新庁舎・本館の外観

道庁新庁舎の傍に建設されている住民福祉館

新庁舎は、慶尚北道のアイデンティティを象徴として、そして文化的にも高い価値のある庁舎とするため韓国伝統の建築様式によって設計されています。また、屋根には道内の名匠によって制作された韓国の伝統的な瓦が６万枚以上敷き詰められ、そのひとつひとつに道民の氏名が記されています。

建設状況の説明を行うキム・テジン管理団長

説明を受ける参加者の様子

道庁とともに建設が続けられる住民福祉館には、将来、育児世代にある職員の就労をサポートする保育所のほか、海外から来道される方のため多文化共生センター等の施設が設置されます。また、これらの建物の地下には、1,800 台規模の駐車場が建設されており、それは災害時等にシェルターとしても活用される計画です。

建設現場を写真に納める参加者の様子

説明資料と現場とを見比べる参加者

（２）「安東河回村」の視察、「第 16 回日中韓３か国地方政府交流会議」への参加

「安東河回村（以下、「河回村」という。）」は、韓国で最も歴史的価値が高いと評され、歴史と文化の街として知られる慶尚北道安東市を象徴する民族村です。今回、年間約 80 万人の観光客が訪れ、観光地としても成功を収めている河回村を視察しました。

河回村は、現在もなお、両班（ヤンバン）（韓国の昔の貴族階級）の子孫たちが先祖から受け継いだ家屋を守り生活しています。瓦葺きや藁葺きの韓屋が良好な状態のままで保存されてきました。

1999 年には英国のエリザベス女王が訪問し、それを契機とし、観光地としての整備が進められ、2010 年にはユネスコの世界文化遺産に登録されています。

世界文化遺産登録を記念する石碑

河回村の村中の様子

ガイドの説明を受ける参加者

「日中韓３か国地方政府交流会議」は、歴史的、地理的にも密接な関係にある日本、中国、韓国の３か国地方政府間の国際交流・協力を一層促進することを目的に、1999 年から毎年、３か国の国際交流機関（日本・自治体国際化協会、中国・中国人民対外友好協会、韓国・全国市道知事協議会）が主催し、輪番制で開催されています。

今回のセミナーでは、９月１日（月）から４日（木）までの４日間、慶尚北道亀尾（くみ）市で開催された「第 16 回日中韓３か国地方政府交流会議」に参加し、「人文交流の拡大による日中韓交流の活性化」とした日中韓の自治体代表者による講演や発表を聴講するとともに、各国参加者との交流を行いネットワーク形成に努めました。

参加者全員での記念撮影

クレア岡本理事長による祝辞

開幕式での参加者の様子

4　セミナーに参加された皆さんのご意見

セミナー終了後、参加者の皆さんを対象に実施したアンケートでは、アンケートにご協力いただいたすべての方から「大変良かった」あるいは「良かった」との評価をいただきました。また、これらの評価の理由として、以下のようなご意見をいただきましたので、ご紹介します。

【参加者からいただいたご意見の一例】

「慶尚北道庁移転新都市」の視察について

・日本では財政面で実現不可能な取組みであり、この新都市の状況について引き続き注視していきたい。（２回目）
・日本とは違った感覚での地方自治の進め方を見ることができた。（２回目）
・韓国ならではの「国・行政主導型」の移転政策が興味深かった。（２回目）
・韓屋作りの庁舎が印象的だった。行政移転の好事例になっていく施設だと思われるため、その取組みの早い段階で視察することができ良かった。（２回目）

「安東河回村」の視察について

・観光客の入場料が村の維持費に充当されている仕組みは、地域振興の成功事例として感心させられるものであった。（２回目）
・韓国伝統の家屋が住民の理解、協力によりそのままの形で保存され、それらが観光地として成功している事例として視察することができ、たいへん有意義だった。（４回目以上）

「第 16 回日中韓３か国地方政府交流会議」への参加について

・他の自治体のさまざまな政策について知ることができた。特に、ソウル特別市西大門区による「新村（シンチョン）復活プロジェクト」はとても興味深かった。新村の街の活気の裏に、そのような行政の力が働いていたことを初めて知ることができた。また、国を越えた公務員研修プロジェクトも興味深いものであった。（２回目）
・各自治体による交流事業等は傾聴に値する内容ばかりであった。今後の国際関係業務に役立てたい。（２回目）
・各自治体の取組みについて、情報収集できる絶好の機会であった。また、関係者と交流する機会を持つことができ良かった。（３回目）
・大規模な国際会議の運営現場、行事のプロモーション、自治体を挙げての受入体制等、参考になった。（４回目以上）

5　今後も駐在地方公務員の皆さまにとって有意義なセミナーの開催に努めます！

今回、セミナーを開催し、韓国に駐在されている多くの地方公務員の方々にご参加いただき、セミナー内容に対して総じて良好な評価やご意見をいただきました。

クレアソウル事務所では、今後も韓国に駐在する日本の地方公務員の皆さまの、国際交流分野に関する知識向上・理解促進、駐在員として活動する上でのスキルアップ、そして人的ネットワーク形成等のため、少しでもお役に立てる情報や機会をご提供できるよう努力してまいります。

～韓国に駐在する地方公務員の皆さま、ぜひ本セミナーへご参加ください！～

韓国に駐在する地方公務員が、個別に先進地を訪問したり視察したりすることは、なかなか困難な面があります。そのような悩みを解決するため、クレアソウル事務所が長年のプレゼンスとコネクションを活かしたセミナーを開催します！しかも、参加費は無料※です！（※集合場所までの交通費等は自己負担していただきます。）

韓国に駐在する地方公務員の皆さま、ぜひ本セミナーへご参加ください！

【クレアソウルセミナーに関するお問い合わせ先】

一般財団法人自治体国際化協会　ソウル事務所（担当：永田、原田）
電話：+82-(0)2-733-5681　ﾌｧｸｼﾐﾘ：+82-(0)2-733-8873
電子メール：info@clair.or.kr

（永田所長補佐　鳥取県派遣）